



2015年度JABアワード

選考理由

第2回 JAB アワード表彰式

審査基準

- 不適合が無い、欠点がないことではなく、P D C Aの継続的な実践によって、
 - 事業の特性に応じた、
 - 特徴のあるマネジメントシステムが構築・運用され、
 - 着実な成果が得られている
- かどうかを基準に判定を行いました。
- 書類審査、現場審査の2段階。
 - 2015年度は16組織から応募（昨年度61組織）。



選考委員

【委員長】 中央大学理工学部 経営システム工学科 教授
中條 武志

【委員】 一般社団法人RMA 代表理事
井口 新一

ユウアイ電子株式会社 取締役会長／日本電計株式会社 執行役員
伊藤 明

富士通株式会社 環境本部 グリーン戦略統括部 シニアエキスパート
川口 努

公益財団法人 日本適合性認定協会 専務理事 事務局長
久保 真

大阪いずみ市民生活協同組合 CSR推進室
土居 栄三

第2回 JAB アワード表彰式



2015年度表彰組織

- 澁谷工業株式会社
メカトロ事業部 (石川県)

- 株式会社日立製作所 インフラシステム社
大みか事業所 (茨城県)

- 大阪いずみ市民生活協同組合
(大阪府)

澁谷工業株式会社 メカトロ事業部



主な事業：切断加工機、半導体製造装置、医療機器の製造

【事業の特性】

- ◆ 顧客から注文を受けて設計・製造を行う受注生産型の装置メーカー
- ◆ 切断加工機：国内、半導体製造装置・医療機器：韓国・中国等世界各国へ納入

【MSの特徴】

1. トップダウンの目経管と全員参加のSSD運動に長期的視点を加えた活動

- ◆ 従来から事業活動で根付いていた活動を活かし、長期的な視点を追加
- ◆ 目経管：「攻めの目標」と「守りの目標」を設定し、お互いが連動
- ◆ SSD運動：全員参加の小集団活動による一人ひとりの成長とチームの成長

2. ISO 14001とISO 9001の共通部分を洗い出し、仕組みをスリム化

- ◆ マニュアルと9サブシステムを複合化（共通、品質固有、環境固有に整理）
- ◆ 事業活動と一体化させ、実務を担当する組織で運用

3. 内部監査・ASRP適用を活用した人材育成

- ◆ 内部監査員経験をISO理解の機会と捉え、3年交代制で運用
- ◆ 経験ある監査員に新任監査員を組み合わせ育て育成
- ◆ ASRP適用を通じて得た気づきを全内部監査員に共有し、育成に活用

【成果】

- ◆ 知識の共有や予防処置・是正処置の徹底により、売上高クレーム費率を減少
- ◆ 施策の確実な実行により、CO2原単位の削減、コストダウンを実現
- ◆ 環境ボランティア活動へ2009年以來のべ1334名が参加

株式会社日立製作所 インフラシステム社 大みか事業所



主な事業：情報制御システムの設計・開発・製造

【事業の特性】

- ◆ 社会インフラづくりに貢献することを目指している会社において、社会・産業分野の情報制御システムを設計・製造する拠点工場
- ◆ 環境目標未達成を機に、事業所としての社会的責任を痛感

【MSの特徴】

1. スマートメータや電力センサーの設置による徹底した「見える化」

- ◆ 需要量予測による蓄電池充放電計画、目標との対比による空調の直接制御
- ◆ 省エネ効果の把握による、環境・エネルギー計画値達成への活性化

2. 組織横断的な環境・エネルギー管理体制の構築と処置基準の明確化

- ◆ 目標達成状況に応じた対応と処置基準を定め、事業所長主催の会議で検討
- ◆ 過達時には理由分析と以降の計画値修正を行う仕組み

3. 見える化した情報を改善につなげるための従業員の教育・訓練

- ◆ 国内外の環境関連法規制と対応等の情報共有を隔月で実施
- ◆ 環境配慮型設計手法の教育など、「人」の能力と感性の向上を図っている

【成果】

- ◆ 契約電力を従来の8000kWから5700kWに低減(2012年度以降)
- ◆ エネルギー使用量原単位で中期計画の削減目標値を前倒して達成
- ◆ 電力削減が各年のCO2削減計画値の達成につながっている

大阪いずみ市民生活協同組合



主な事業：宅配事業、店舗事業、福祉事業

【事業の特性】

- ◆ 大阪府の南部、泉州地区・堺市を中心とする担当エリア25市町村のうち全世帯の約35%が加入
- ◆ 従業員は、勤務形態が様々に異なる定時職員の割合が約半数を占める

【MSの特徴】

1. 中期経営計画と現場の活動をつなぐシステム

- ◆ 中期経営計画に基づき、各職場の政策執行課題、目標と方策を明確化
- ◆ 全員を巻き込み、プロジェクト方式や横断的な委員会によって改善を実践

2. 現場のリスク・機会への積極的な取り組み

- ◆ 各職場における業務フローを明確化した上で、「困りごとの芽」「笑顔の芽」を集め、「リスク一覧表」や「地域にいいこと広げまシート」に整理
- ◆ 手順に落とし込むとともに、マップ化して政策執行課題へ反映

3. マネジメントとして目指したい姿、行動基準の明確化と共有・徹底

- ◆ 目指したい姿を明確にするともに、具体的な行動基準を定め、全員に配付
- ◆ 全職員、責任者を対象にアンケート調査し、徹底できていない領域を改善

【成果】

- ◆ 事業は約10年で50～150%の伸び。
- ◆ クレーム数、ミス件数は1/7～1/2に減少。
- ◆ 再資源化率や食品リサイクル率は85～90%を達成